

※今月のみ受注の書目です。

日本史（太平洋戦争）

日本人戦犯裁判とフランス 平積み
インドシナ・サイゴン裁判・東京裁判をめぐる攻防

（2025 年 6 月中旬刊行予定）

難波ちづる（慶應義塾大学経済学部教授）[著]

四六判並製／240 頁 税込予価 2,860 円 ISBN978-4-7664-3035-6 C0021

👉 ココに注目！

- ・「戦勝国」フランスは「敗戦国」日本をどのように裁いたのか。
- ・日本人戦犯裁判を新たな文脈で読み直す。
- ・敗戦後も続く根深い植民地主義を明らかにする。

日仏の植民地主義がぶつかるとき——

共同統治下のインドシナで行われた日本人による戦争犯罪を、フランスはどう裁いたのか。日仏越の最新の資料を用いながら戦前戦後にかけてのインドシナの状況と、現在も続く「未完の脱植民地化」を明らかにする。戦後 80 年記念企画。

対象 一般（戦史に関心のある層）

類書 宇田川幸大『東京裁判研究』（岩波書店）

【営業部からのおすすめポイント】

東京裁判に比べ、ほとんど研究されてこなかったフランスによるサイゴン裁判。日本とフランスがインドシナで築いた奇妙な「共存」関係の果てに、戦後の裁きはどう行われたのか——本書は、忘却された戦犯裁判の実像と、そこに映る西洋植民地主義の根深さに迫ります。敗戦から 80 年、日本人戦犯裁判を新たな文脈で読み直すための一冊です。戦後 80 年のフェアを企画されるお店では関連既刊とあわせ、ラインナップへの追加をご検討ください。（福本）

👉 主要目次、注文書、関連既刊を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【主要目次】

はじめに——日本人戦犯裁判を読み直す

第一章 第二次世界大戦期のインドシナ——日本とフランスの「共存」

はじめに

- 1 日本の仏印進駐とフランスの対応
- 2 インドシナのヴィシー化
- 3 日仏の協力？

第二章 戦後インドシナをめぐる混乱と「清算」

はじめに

- 1 残留日本人という脅威
- 2 ヴィシー派植民地当局の責任追及
- 3 日本との共存に対する批判
- 4 ドゴール派弾圧とレジスタンス活動の不在

第三章 サイゴン裁判で何が裁かれたのか

はじめに

- 1 裁判開廷への道
- 2 サイゴン裁判の概要
- 3 裁判の判決
- 4 裁判のその後——服役と恩赦

プロコンドール島での生活／恩赦

おわりに

第四章 東京裁判におけるフランス——国の思惑と法律家たちの批判

はじめに

- 1 裁判開廷への道
- 2 訴因をめぐる攻防
- 3 フランスによる立証段階
- 4 判決をめぐる思惑

おわりに

おわりに——植民地主義の根深さ

あとがき

索引



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			難波ちづる 著 日本人戦犯裁判とフランス ーインドシナ・サイゴン裁判・東京裁判をめぐる攻防 ISBN978-4-7664-3035-6 C0021	2,860 円	★★★★

★1つで「500部」を表します

関連既刊（ぜひ併せてご注文ください!）

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	定価(税込)
			増田弘 著 南方からの帰還 ー日本軍兵士の抑留と復員 ISBN978-4-7664-2609-0 C0021	2,970 円